

2010年1月26日

文責：山田 肇

メディア集中に関する研究会 第9回

開催月日：2010年1月26日

開催場所：東洋大学大手町サテライト

参加者数：8名

議事内容：

議題1 わが国における地上波ラジオの集中について（試算）

メディア開発総研の浅利光昭氏が上記タイトルで講演した。講演及び質疑の概要は次のとおりである。

- 地上波ラジオの市場は縮小しつつあり、この10年間で600億円の減少、今では2000億円を切っている。なかでもAMラジオの縮小がその大半を占めている。
- AMラジオ+短波ラジオの市場では、市場の縮小に伴いHHIが増加していった。特に90年代後半には東京よりも地方が先に落ち込んだため、HHIは900前後に達した。その後、東京も落ち込んで、今では800前後に戻っている。
- FMラジオでは、全国に10局ほどしかなかった80年代前半にはHHIが4000を超えていたが、その後地方に開局が進み、また、この10年間はコミュニティFMが整備されていったので、HHIは400程度まで下がっている。
- AM、短波とFMを合計すると、AMでの寡占化とコミュニティFMの新規参入が打ち消しあって、1980年以降、HHIは400から500の間を前後している状態にある。
- 70年代までは国民全体の娯楽としてラジオが位置づけられていた。その後、音楽に特化したFM、高齢者番組に特化したAM、声優オタク相手の深夜AMなどのセグメント化が進んでいった。インターネットラジオや携帯型音楽プレイヤーなどとの競争の中で、ラジオらしいセグメントを見つけることができず、ラジオは苦戦が続いている。このままではデジタルラジオもむずかしいだろう。
- 声優を抱えたレーベルやタレント事務所は原盤権を持ち、それを使ってオタク相手にインターネットラジオの「全国放送」を展開している。放送以外には著作権を許諾されていない放送局が対抗するのはむずかしい。こうして、放送が得意としてきたセグメントすら食い荒らされ始めている。
- テレビやケーブルテレビでMSOが成功したのは、成功するビジネスモデルがあるため。ラジオでは誰もよいビジネスモデルを考えつかないのでMSO化も進まない。
- 収入データがないという理由でNHKは計算から除外されている。聴取率データ（どの局も1.2%とか1.3%で、それ自体怪しいところもあるが）で見ると、NHKはTBSラジオに次ぐ二位か三位の放送局にすぎない。したがってNHKを計算に入れるとHHI

は減少するはずで、「集中度」という点では大きな問題とは思えない。

- ラジオでも全国ネットは存在する。かつて巨人戦を独占的に中継するために作られたもので、テレビのような主従関係ではない。地方ラジオ局は自主製作番組が多く、また他のキー局を中継する場合もある。テレビでいうクロスネット局のような存在であるので、ネットとして合算して集中度を計算する意義は少ない。合算自体も難しいだろう。

議題2 国際プロジェクトへの対応について

山田肇幹事より、国際プロジェクトの会合が3月11日、12日に開催されることが報告された。20数カ国が集まり、各国のメディア集中度を報告するというのが主目的である。日本からは中村清主査と山田肇幹事が出席する。

その他議題

次回研究会は、国際プロジェクト会合の結果を報告するため、3月下旬に開催する。

以上